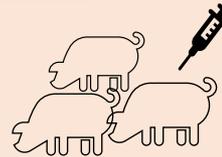
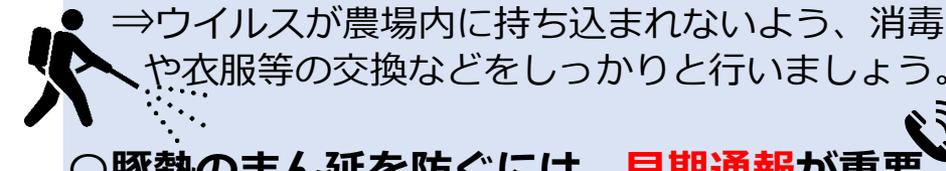


- ▶ 豚熱には有効なワクチンが存在し、適切に接種すれば発生を予防することが可能です。
- ▶ 適切な衛生管理を行い、ウイルスの農場への侵入を防ぎましょう。
- ▶ 異状があった場合の早期通報を徹底し、周囲の農場等へのウイルスのまん延を防ぎましょう。

ワクチン接種の実施

- ワクチン接種の体制整備を迅速に進めます。
⇒九州各県をワクチン接種推奨地域に設定して、速やかな接種を進めます。
- ワクチンの供給を確保します。
⇒ワクチンは十分な在庫があり、増産についてもメーカーに要請しています。
- ワクチンの打ち手の確保が重要です。
⇒家畜防疫員だけでなく、研修を受ければ農場の飼養衛生管理者もワクチン接種が特例的に可能となります。
(各県で研修が速やかに進められるよう先行県の取組を共有するなど支援します。)

飼養衛生管理の徹底

- 豚熱の発生を防ぐためには、日々の飼養衛生管理の徹底が最も重要です。
⇒ウイルスが農場内に持ち込まれないよう、消毒や衣服等の交換などをしっかりと行いましょう。
- 豚熱のまん延を防ぐには、早期通報が重要です。
⇒異状がみられる場合や、死亡頭数が増加した場合は、最寄りの家畜保健衛生所に相談してください。

野生いのしし対策の強化

- 感染拡大防止には、野生いのししの感染状況の把握が重要です。
⇒各県において、猟友会等と連携して捕獲を強化するとともに、検査も強化します。
⇒いのししの死体を見つけた場合には、自治体や最寄りの家畜保健衛生所に御連絡ください。

